

国際 P2M 学会誌 投稿規程

本誌の目的と取り扱い領域

国際 P2M 学会誌（以降、本誌）は一般社団法人国際 P2M 学会が発行する和文・英文混載のオープンアクセス本誌で、オンラインで年 2 回発行されている。オンラインの記事は掲載と同時に誰もが閲覧できる。本誌は P2M に関連する学者・研究者・実務家・学生・その他の関心ある人々に向けた寄稿を掲載している。本誌の査読は原則として、後述の「査読のプロセス」に沿って実施される。

原稿種別

本誌では原則として研究論文（Article）を掲載する。研究論文は、独自の研究を包括的に記述した報告である。この原稿は、後述の「原稿の様式」に沿って著者独自の概念・理論・手法等が客観的に有用であることを示したものとする。編集委員会の審議を経て、それ以外の種別の論文（例：講演論文・招待論文）が掲載されることがある。

倫理方針

本誌に原稿を投稿する前に、著者は当学会が別で定める倫理規程を読み遵守していることを確認しなければならない。編集委員会が当学会の倫理規程に準拠していないと判断した原稿に対し、査読無しで却下、または受付を撤回することがある。

投稿

国際 P2M 学会誌は世界中の著者からの原稿の投稿を歓迎する。ただし、論文の筆頭執筆者は本会会員に限る。投稿の言語は日本語および英語とする。本誌への投稿は、研究発表大会での研究発表を申請（Web フォームにて実施）することで、編集委員より原稿の投稿方法が示される。著者はその方法に沿って原稿を提出する。さらに当該研究発表大会にて口頭発表を実施することで、本誌への投稿が成立する。

オリジナリティ

本誌へ投稿される原稿は未発表・未発行のものに限る。投稿された原稿が未発表・未発行であるか否かは、本誌の取り扱い領域に対して独創的で有用な知見が含まれるか否かで判断される。剽窃・盗用の疑いのある原稿は編集委員の判断で却下または撤回されることがある。

オーサーシップ（著者資格）

本誌へ投稿された原稿は、著者リストに載っている全ての著者が内容について承認したものと見なす。原稿投稿後の著者リストの変更（著者名の追加・削除・再配置等）は、著者全員および編集委員の承認を得る必要がある。

著者は、オーサーシップ（著者資格）を規定する 国際科学編集者会議（Council of Science Editors, CSE）の原則を考慮することが推奨される。CSE のガイドライン（およびその中の参考情報）において、著者は論文の構想やデザインまたはデータの取得、分析、解釈に実質的に貢献した者、あるいは論文の起草や実質的な改訂を行った者であること。また、著者は、自分自身が当該研究に寄与したことについて責任を負うことに同意し、どの共著者が当該研究のどの部分に責任を負うかを確認する。その上で、当該研究の公正性を保障し、最終版原稿およびその後の投稿を承認する。オーサーシップ（著者資格）を持たない研究貢献者は、謝辞のセクションに含めることができる。

著作権のある資料の転載

著者自身が著作権を保持しない資料が原稿に含まれている場合、著者はその資料の著作権表示等に沿い必要な表示・許諾を行わなければならない。

データおよび資料の入手可能性

公開データや資料等が原稿に含まれている場合、その出所（公開リポジトリや商用データベース等）を、登録番号や発行機関の詳細を含め原稿に記載する必要がある。本誌では、原稿に記載されたデータ、資材、実験プロトコルの共有を求める合理的な要求を著者が認めることを奨励する。

著者の利害関係と利益相反

研究の透明性の観点から、本誌では全ての著者に、投稿した原稿に関連する競合または利益相反がある場合、その旨を宣言することを求めている。利益相反は、著者の公平な研究の実施および報告に影響を及ぼす可能性のある状況が顕在する/認識されている/潜在する場合に生じる。利害の衝突の可能性としては、商業的または財務的な利害の競合、商業的な所属、コンサルティングの役割、株式の所有等が例として挙げられる。著者は、自分の論文のための全ての資金の出所を原稿の謝辞のセクションに記載する必要がある。

守秘義務

本誌は未発表原稿の機密性を保持する。本誌へ原稿を投稿することにより、著者は原稿に関する全ての連絡（編集委員会・委員、査読者からの連絡）の機密を厳守することを保証するものと見なす。

セルフアーカイビング（グリーン OA）方針

著者は、セルフアーカイビング（グリーンオープンアクセス）として自身の原稿をオンラインリポジトリに登録できる。本誌では、原著論文の著者に対し、本誌への掲載後すぐに機関リポジトリまたは公開リポジトリに論文を登録することを奨励している。

長期的なデジタルアーカイビング

本誌を公開している J-STAGE では、本誌を含むデジタルコンテンツをダークアーカイブサービスである Portico に保存している。自然災害等により J-STAGE で一定期間以上コンテンツを提供できない事態が発生した場合、本誌のコンテンツは Portico にて公開される。参照：<https://www.portico.org/publishers/jstage/>

査読

査読のプロセス

本誌はシングル・ブラインド方式の査読を採用している。原稿の査読は以下のとおり行われる。

1. 論文審査は、国際 P2M 学会編集委員会規程第 2 条に則り、国際 P2M 学会誌編集委員会が指名した査読委員が行なう。査読委員の氏名は秘匿する。
2. 当学会の研究発表大会へ査読を希望する形で投稿し、かつ当該研究発表大会にて口頭発表が実施された原稿の中から、査読委員が国際 P2M 学会誌掲載候補論文を評価・選定する。
3. 掲載候補論文 1 件につき 2 名の査読委員 A・B が指名される。査読委員は著者本人及び関係者の原稿の審査には指名されない。
4. 指定日までに所定の様式に従い編集委員長あてに掲載可否及び修正コメントを回答する。
5. 著者への掲載可否及び修正コメントの連絡を編集委員長が行う。
6. 著者は修正コメントに沿い原稿を修正し、指定日までに編集委員長へ修正済み原稿を再提出する。以降掲載可否が確定するまで 4~5 を最大 3 回まで繰り返す。
7. 査読委員 A・B の見解が異なり掲載の可否を決定できない場合には、編集委員長が掲載可否を決定する。

採択基準

原稿が本誌の掲載要件を満たし、出版された際に本誌の取り扱い領域へ貢献すると思われる場合、編集委員は本誌への掲載を推薦する。本誌に掲載される論文の採択要件は主に以下の通りである。

1. 本誌の取り扱う領域に関連深く、読者の関心が高い内容であること。
2. 研究対象の分野において新規性・独創性・重要性があること。
3. 著者の主張とその根拠が詳細かつ論理的に記述されていること。

異議申し立て

査読の判断に誤りがあると思われる場合、著者は編集委員会に異議を申し立てることができる。異議申し立ては、著者が査読者や編集委員の誤解や誤りの詳細な根拠を提示した場合のみ検討される。異議申し立ては編集委員長が慎重に検討し最終決定する。判断・処理については出版倫理委員会（COPE）のガイドラインに従う。

エラータと撤回

本誌は、出版された論文の公正性を維持することの重要性を認識している。掲載された論文に誤りがあった場合、エラータの発行により訂正する。エラータには、出版物の科学的な公正性、著者の評判、本誌自体に重大な影響を与える誤りを記述する。掲載された論文の訂正を希望する著者は、原稿を担当した編集委員に、誤りの詳細と変更後の内容を連絡する。共著者の間で訂正をめぐって意見が一致しない場合、編集委員長は編集委員会または外部の査読者に助言を求める場合がある。エラータが発行された場合、反対意見のある著者については本文にその旨が記載される。

掲載された論文が無効または信頼できない結果や結論を含んでいたり、他の場所で発表されていたり、行動規範（研究倫理または出版倫理）を侵害している場合、撤回を行う。論文の撤回を要求する個人は、懸念事項の詳細を本誌編集委員に連絡することを奨励する。編集委員長は調査を行い、当該論文の著者に連絡して回答を得る。共著者の間で撤回をめぐって意見が一致しない場合、編集委員長は編集委員会または外部の査読者に助言を求める場合がある。論文が撤回された場合、反対意見のある著者については本文にその旨が記載される。

エラータまたは撤回についての決定は、編集委員の協議によって行われる。

倫理違反の可能性がある場合の対応

本誌は倫理違反の申し立てがあった場合には、自誌の方針および出版倫理委員会（COPE）のガイドラインに従って対応する。

査読者の守秘義務

査読者は、その責任の一環として未発表原稿の機密性を常に保持することに同意する。また、査読者は原稿の査読依頼を受けることにより、以下を遵守することに同意したものと見なす。

1. 原稿の査読における自身の役割を明らかにしない。
2. 原稿の著者に身元を明かさない。
3. 査読に直接関与していない人と原稿やその内容について議論しない。
4. 編集委員許可を事前に得ることなく、第三者（ポスドクや博士課程の学生を含む）を査読に参加させない。
5. 原稿のデータや情報を自身の研究や出版物に利用しない。
6. 自分自身や他の人の利益のため、あるいは個人や組織に不利益を与えるために、査読の過程で得られた情報を利用しない。

査読者の利益相反

利益相反は、査読者による原稿の公平な評価に影響を及ぼす可能性のある状況が顕在する/認識されている/潜在する場合に生じる。具体的には、著者と個人的または職業上の関係がある、著者と同じテーマまたは競合するテーマで研究をしている、研究やその出版物に金銭的な利害関係がある、以前のバージョンの原稿を見たことがある、等が含まれる。編集委員は査読者を指名する際に利益相反の回避に努めるが、潜在的なバイアスを必ずしも特定できるとは限らない。査読者は、利益相反がある場合は編集委員へ申告する必要がある、編集委員は申告に基づき最善の行動を決定する。

著作権及びオープンアクセスと料金

本誌は完全オープンアクセスであり、クリエイティブ・コモンズ (CC) ライセンスを使用している。このライセンスは、利用者が本誌に掲載された論文を無償かつ出版者や著者の事前承諾を得ることなく使用、再利用を許可するものである。CC ライセンスの詳細は以下の通りである。

著作権とライセンシング

[CC BY-NC 4.0]

本誌に掲載されている記事は全てオープンアクセスである。著者はクリエイティブ・コモンズ・ライセンス CC BY-NC 4.0 (Attribution-NonCommercial 4.0 International) を選択することとする。このライセンスは、適切なクレジットを表示し、非営利目的である限りにおいて、記事の共有、翻案等の利用を許可するものである。助成機関によっては、助成を受けた論文を特定のクリエイティブ・コモンズ・ライセンスの下で公開することを要求していることがある。関連する助成機関への確認は、投稿する前に著者自身によって行われる必要がある。

掲載論文の著作権（日本国著作権法第 21 条から 28 条までに規定される全ての権利）は本学会に譲渡される。

論文掲載料 (APC)

学術誌の発行には、査読、原稿整理、組版、オンラインホスティング等に多くの費用がかかる。購読料・投稿料を請求しない本誌でこれらの費用を賄うため、著者（あるいはその代理人）に対し論文掲載料 (APC) の支払いが求められる。本誌では、全ての原稿に対して 30,000 円の支払いが発生する。採択された原稿の著者には、掲載決定後に APC の請求書が発行される。

原稿の様式

用紙サイズと余白の設定

原稿はA4版で横書き1段組み、行数は36行、印刷の向きは縦に統一し余白は上下25mm、左30mm、右25mmで、20ページ以内で執筆する。学会ホームページに論文サンプルを公開しているので、適宜活用すること。

<http://www.iap2m.org/file/sample.docx>

タイトル

原稿の内容を簡潔かつ明確に示す必要があり、検索エンジン最適化のために重要である。論文の冒頭に和文（MS明朝）と英文（Times New Roman）でサイズ14ptにて記載する。サブタイトルがある場合、和文と英文を12ptで記載する。

著者

著者全員のフルネームを記入する。タイトルの直下に、日本語とローマ字で記入する。（日本語名が無い方は、ローマ字名のみ記入）

所属機関

著者名の末尾に注釈をつけ、1ページ目の文末にアンダーラインを引き、その下に所属名を記載する。

キーワード

和文と英文の要旨の直下に、5・6個程度記載されている。（特に英文キーワードを忘れていて多いので要確認）

要旨（抄録）

著者名の直下に原稿の要旨を和文（MS明朝）と英文（Times New Roman）でサイズ9ptにて、それぞれ8行程度で記載する（8行以上でもよいが簡潔に纏める）。

本文

文字設定はサイズ10.5ptでMS明朝（半角英数はTimes New Roman）とする。

謝辞

研究に関する全ての助成元を簡潔にまとめて記載する。

参考文献

末尾に下記の書式で列挙し、本文中に上付き設定で引用番号を付す。

[1] 著者名「論文名」、雑誌名、Vol. 1、No. 1、pp. 1-2、発行機関名、発行年

[1] 著者名「著書名」、出版社名、pp. 1-2、発行年

※ 海外の文献の場合「、」を「, 」とし、タイトルのカッコは””とする

※ カッコ中に URL を入れる場合 URL の前後に半角スペースを入れる

例： (<http://.....html>)

図表

図はタイトルを下部に、表はタイトルを上部に入れる。

補足資料（電子付録）

補足資料は、読者が原稿を理解する上で不可欠ではないが付加的な資料として提供される。補足資料はデータ・テキスト・音声・動画ファイル等で構成され、受理された原稿と共にオンラインで公開される。補足資料がある場合は査読の対象となるため、著者は原稿提出の際には最終版を提出する。原稿受理後は、著者は補足資料へ変更を加えることはできない。

英語の水準

原稿内の英文は、文法的に正しい英語で記述する。英語を母国語としない著者は、投稿前にネイティブスピーカーによるチェックを受けるか、英文校正サービスを利用することを推奨する。原稿の内容理解に支障をきたすレベルの英語で記述されている場合は、査読を経ずに却下されることがある。

組版及び校正

採択された原稿は、出版前に本誌の編集担当者によって組版と校正が実施される。責任著者は、送られたページ校正の結果を編集委員より示された期日中にチェックして返送する。校正の段階では過度の変更は認められず、組版のミスや誤字・脱字に対する修正のみが認められる。採択された原稿に関する全ての連絡は、責任著者との間で行われる。

問い合わせ先

編集事務局/編集委員長宛のお問い合わせは、下記へご連絡ください。

<http://www.iap2m.org/con-2/>

最終更新日：2023年3月6日